

平成 22 年度

事 業 報 告 書

学校法人 聖和学園

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学園は一宗一派によらない仏教を教育の理念とし、宗教的情操の涵養に重きをおき、知育、体育、徳育の養成に努めることを教育の方針としている。宗教の授業や仏教行事を通し、釈尊の教えを心の糧として人格の陶冶と勉学に励むことを目的とする学園である。

本学園は、昭和 5 年宮城県仏教会の仏教精神による高等女学校設立の発願により、仏教的情操教育を建学の精神とし、開校以来 70 有余年の伝統と歴史をもつ女子教育機関として、その社会的使命を果たしてきた。しかしながら、時代の趨勢を考慮し、平成 15 年度から男女共学化を実施した。現在は幼稚園、高等学校、短期大学を擁し、一貫教育を目指している。

(2) 学校法人の沿革

昭和 4 年 (1929 年)

4 月 宮城県仏教会発足、仏教精神による高等女学校設立を計画

9 月 学校設立基金として吉田つぎ女史の篤志寄付を受ける

昭和 5 年 (1930 年)

3 月 伊澤平左衛門を設立者として、高等女学校令により開校認可

校名「吉田高等女学校」、校長 木村匡、総定員 400 名

昭和 11 年 (1936 年)

3 月 「財団法人吉田高等女学校」となる (初代理事長 伊澤平馬)

昭和 14 年 (1939 年)

4 月 「吉田専修女学園」設置 (修業年限 1 年)

昭和 19 年 (1944 年)

3 月 「吉田専修女学園」廃止

昭和 23 年 (1948 年)

4 月 「聖和学園」と改称。「吉田高等学校」、「吉田中学校」併設

昭和 26 年 (1951 年)

2 月 「学校法人聖和学園」設置

4 月 「聖和学園短期大学」開設 (国文科、被服科)

昭和 29 年 (1954 年)

4 月 「聖和幼稚園」開設

昭和 38 年 (1963 年)

4 月 短期大学に保育科開設

昭和 46 年 (1971 年)

4 月 法人本部事務局設置

昭和 54 年 (1979 年)

3 月 「吉田中学校」廃校

昭和 61 年 (1986 年)

4 月 「吉田高等学校」を「聖和学園高等学校」に校名変更

昭和 63 年 (1988 年)

4 月 「聖和学園短期大学」移転 (仙台市南中山 5 丁目 5 - 2)

平成 5 年 (1993 年)

4 月 短期大学「被服科」を「生活文化科」へ学科名変更

平成 11 年 (1999 年)

7 月 短期大学の定員 20 名認可

平成 15 年 (2003 年)

4 月 短期大学「国文科」の募集を停止し、「人間コミュニケーション学科」設置

高等学校を男女共学化し、高等学校「三神峯キャンパス」設置

平成 17 年 (2005 年)

4 月 短期大学「人間コミュニケーション学科」、「生活文化科」の募集を停止し、

「キャリア開発総合学科」設置

平成 19 年 (2007 年)

4 月 短期大学の「保育科」の募集を停止し、「保育福祉学科」設置

(3) 設置する学校の内容

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学校名 (所在地)	学部・学科等名	開設 年度	入学 定員(a) 人	志願者 数 人	合格者 数 人	入学者 数 (b) 人	(b)/(a) %	収 容 定 員 (c) 人	現員(d) 人	(d)/(c) %
聖和学園短期大学 (仙台市泉区南中山 5 丁目 5-2)	キャリア開発総合学科	(H17)	130	221	179	170	130.8	260	337	129.6
	保育福祉学科	(H19)	120	322	126	120	100.0	240	234	97.5
	短期大学 (計)	S26	250	543	305	290	116.0	500	571	114.2
聖和学園高等学校 薬師堂キャンパス (仙台市若林区木ノ下 3 丁目 4-1) 三神峯キャンパス (仙台市太白区土手内 2 丁目 1-1)	全日制普通課程 (薬師堂キャンパス)	(H15)	400	1,951	1,888	415	103.8	1,200	1,133	94.4
	(三神峯キャンパス)	(H15)	200	830	720	182	91.0	600	564	94.0
	高等学校 (計)	S23	600	2,781	2,608	597	99.5	1,800	1,697	94.3
聖和幼稚園 (仙台市若林区木ノ下 4 丁目 3-14)		S29	120	84	84	80	66.7	300	224	74.7

参考) 平成 23 年度の状況

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

学校名 (所在地)	学部・学科等名	開設 年度	入学 定員(a) 人	志願者 数 人	合格者 数 人	入学者 数 (b) 人	(b)/(a) %	収 容 定 員 (c) 人	現員(d) 人	(d)/(c) %
聖和学園短期大学 (仙台市泉区南中山 5 丁目 5-2)	キャリア開発総合学科	(H17)	130	181	120	155	119.2	260	324	124.6
	保育福祉学科	(H19)	120	388	168	116	96.7	240	234	97.5
	短期大学 (計)	S26	250	569	288	271	108.4	500	558	111.6
聖和学園高等学校 薬師堂キャンパス (仙台市若林区木ノ下 3 丁目 4-1) 三神峯キャンパス (仙台市太白区土手内 2 丁目 1-1)	全日制普通課程 (薬師堂キャンパス)	(H15)	400	1,784	1,562	364	91.0	1,200	1,095	91.3
	(三神峯キャンパス)	(H15)	200	632	480	193	96.5	600	540	90.0
	高等学校 (計)	S23	600	2,416	2,042	557	92.8	1,800	1,635	90.8
聖和幼稚園 (仙台市若林区木ノ下 4 丁目 3-14)		S29	120	81	81	77	64.2	300	209	69.7

(4) 役員の概要

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

①理 事

定員数 (10~13 名) 現員 (10 名)

区 分	氏 名	性別	勤務区分	現 職	住 所
理 事 長	スズキ シゲオ 鈴木 繁雄	男	非常勤	会社社長	仙台市
常務理事	カマタ ブンケイ 鎌田 文恵	男	非常勤	短期大学学長	仙台市
常務理事	ホシ ショウブン 星 尚文	男	常勤	高等学校校長	仙台市
常務理事	エンドウ シゲキ 遠藤 茂樹	男	常勤	幼稚園園長	仙台市
常務理事	オオスマ セツオ 大沼 節雄	男	常勤	法人本部事務局長	仙台市
理 事	アカイザワ タカコ 赤井澤 孝子	女	非常勤	会社社長	仙台市
理 事	キタザワ タカオ 北澤 隆男	男	常勤	法人本部事務局次長	仙台市
理 事	コンノ アツシ 今野 敦之	男	非常勤	会社社長	仙台市
理 事	アベ カンクロウ 阿部 勘九郎	男	非常勤	会社社長	塩釜市
理 事	チバ ノブヒロ 千葉 信博	男	非常勤	会社社長	仙台市

②監 事

定員数 (3 名) 現員 (3 名)

区 分	氏 名	性別	勤務区分	現 職	住 所
監 事	コンノ マモル 今野 守	男	非常勤	会社役員	仙台市
監 事	ハサマ ミエコ 狭間 美枝子	女	非常勤	無職	仙台市
監 事	ワタライ コウジュン 渡会 弘純	男	非常勤	無職	富谷町

(5) 評議員の概要

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

定員数 (21 名～41 名) 現員 (28 名)

氏 名	主な現職等	氏 名	主な現職等
鈴木 繁雄	理 事 長	菅原 幸枝	高等学校教諭
鎌田 文恵	常務理事	高橋 誠也	弁 護 士
星 尚文	常務理事	真田 昌行	弁 護 士
遠藤茂樹	常務理事	笠原 温雄	短期大学協和会会長
大沼 節雄	常務理事	谷口 加寿子	高等学校父母教師会会長
赤井澤 孝子	理 事	片岡 彰	短期大学教授
北澤 隆男	理 事	小野 安壮	高等学校教諭
今野 敦之	理 事	小野 真喜子	短期大学教授
阿部 勘九郎	理 事	古川 郁子	短期大学職員
千葉 信博	理 事	竹野 義信	高等学校教諭
佐久間 美江子	—	小山 次夫	高等学校職員
大和田 慎子	—	吉田 憲三郎	高等学校職員
志子田 ふさ	—	大宮司 慎一	高等学校教諭
田口 京子	—	鳴海 渉	短期大学職員

(6) 教職員の概要

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

部 門	区 分	教 員	職 員	合 計
法人本部	本 務	—	9	9
	非常勤・兼務	—	0	0
	計	—	9	9
短期大学	本 務	26	14	40
	非常勤・兼務	105	2	107
	計	131	16	147
高等学校	本 務	100	11	111
	非常勤・兼務	46	19	65
	計	146	30	176
幼稚園	本 務	13	2	15
	非常勤・兼務	0	0	0
	計	13	2	15
合 計	本 務	113	36	149
	非常勤・兼務	151	21	172
	計	264	57	321

2. 事業の概要

(1) 当年度の概要

少子化の進展等の影響により私学を取りまく環境は厳しい状況にある。平成 22 年度においては、高等学校の授業料無償化、私学は就学支援金制度が導入され教育費用に関する保護者の経済的負担軽減がはかれる一方、公私間の競争がこれまで以上に激化するなど私学の経営環境は一層厳しさを増している。

本学園においては、第 2 次長期経営計画に基づく年次事業計画のもと、①教育機関としての本業である教育成果の発揮・顕在化等教育目標の設定とその達成、②収容定員の継続的確保、③各部門の在籍者・カリキュラム等に応じた「教職員基準人員」の制定、④適切な進路指導と充実した支援、⑤社会で評価される人間の育成、⑥学園関係者（学生生徒、保護者、卒業生受け入れ企業等、教職員）への意識・ニーズ・評価等調査とその対応による満足度の向上、を推進・評価分野として各種施策を展開してきた。

また、短期大学創立 60 周年・高等学校創立 80 周年記念事業として、寄附金の募集や学生・生徒・園児参加の公演を行うなどの記念式典を挙行了した。

学園全般にかかる事業概要

平成 22 年度は、コンプライアンスおよびガバナンス（適正な内部統制や管理運営体制の構築および各種法令等の遵守）を踏まえた経営管理体制の確立を目指したことが特徴としてあげられる。平成 23 年 4 月施行に向けて公益通報制度を導入し公益通報者の保護規程の制定準備作業に着手したほか、理事会・常任理事会においてコンプライアンス経営の重要性の認識を深めた。また、短期大学では授業評価や全学生対象アンケート調査を実施し、学生の満足度・ニーズを把握し改善に取り組んだ。高等学校では創立 80 周年を契機としてマーケティング調査を実施した結果、中学生や保護者の考え方など学校運営に反映させるべき事項が明らかになった。

主な実施事項

○高等学校創立 80 周年、短期大学創立 60 周年記念事業

記念事業として、学生・生徒・園児 244 名が参加する公演の開催等記念式典の実施や記録誌を作成した。また、前年度に引き続き寄付金募集活動を行い、総額 14,954 千円の篤志をいただいた。

○規程の整備等

労働基準法の改正により、時間外労働の割増賃金率が引き上げられたこと、時間単位の年次有給休暇の取得が可能となったこと、育児・介護休業法が改正されたこと等から、以下の関連する諸規程の改正を行ったほか、内容の周知を図るためハンドブックを発行した。

労働基準法の改正に伴う「就業規則」、「給与規程」、「有期短時間労働契約者就業規則」の改正
育児介護休業法の改正に伴う「育児休業等に関する規程」、「介護休業等に関する規程」の改正
「退職手当支給規程」、「組織規程」、「校務組織及び所管業務の管理運営規則」等の改正
「労務管理ハンドブック」、「改正育児介護休業マニュアル」の発行

○収益事業法人の設立

少子化の進展、教育改革の実施、教育の質的確保とその向上、公私間・私学間の競争の激化など、一層厳しさを増す学校経営に対応するため、収益事業法人として（株）^{ヒジリ}聖エンタープライズを設立した。

○リスク管理の強化

平成20年11月危機管理体制構築の一環として、「危機管理委員会」、「緊急対策本部」および「調査委員会」を組織したほか、緊急地震速報への対応、安否情報確認システム等の導入を行ってきた。具体的なリスク管理マニュアルについては、学生・生徒・園児によって対応が異なることから部門別に対応し、平成22年度においては「防火・防災管理規程」、「災害対応マニュアル」、「不審者への緊急対応マニュアル」を制定した。今後は平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」における対応状況等を検証し、防災マニュアル等の見直しを行うこととなっている。

○内部監査の継続実施

学内監査は、学校のコンプライアンス、リスク管理、内部統制の重要性に鑑み平成20年度より実施している。平成22年度については以下の項目について監査を実施した。

・第一次内部監査

実施時期：平成22年8月3日～8月5日

監査内容：①理事会等機関決定事項の示達状況、②教務関連文書の管理・保管状況、③ITシステムの利用状況、④資産の管理・運営状況、⑤フォローアップ監査

・第二次内部監査

実施時期：平成22年11月29日～12月1日

監査内容：①現金管理状況、②出退勤システムの入力状況、③学校周辺会計の運営状況、④フォローアップ監査

○電子出勤簿の全学導入

これまで短期大学でのみ電子出勤簿による教職員の出退勤務管理を実施してきたが、労働基準法の改正等、労働時間管理の重要性が増していることから、電子出勤簿を全学に導入した。

○学園広報

学生生徒が地域開催イベントに積極的に参加したほか、FMオリジナルラジオ放送の実施、聖和学園特別協賛映画「風が強く吹いている」を各地域で上映した。また、新たな試みとしてTVCMや業界機関誌を中心として本学学生生徒の就職支援広報を実施し、新聞でも取り上げられるなど、地域から好評を得た。

(2) 平成 22 年度部門別志願者数、在籍者数等

部門別志願者数

部 門	志願者数	前年比
短期大学	543 名	136.4%
高等学校	2,781 名	101.2%
幼稚園	84 名	93.3%
合 計	3,408 名	105.3%

部門別収容定員と在籍者数

部 門	収容定員	在籍者数	充 足 率	前 年 比
短期大学	500 名	571 名	114.2%	98.3%
高等学校	1,800 名	1,697 名	94.3%	96.9%
幼稚園	300 名	224 名	74.7%	94.5%
合 計	2,600 名	2,492 名	95.8%	97.0%

- ・短期大学：平成 17 年に改組転換実施後順調に充足率 100%を超えているが、在籍者数は前年比減少傾向となっている。
- ・高等学校：志願者数は前年比増加傾向となっているが、在籍者数は減少となった。
- ・幼稚園：近年の少子化の影響を受け、在籍者数の減少傾向が続いている。

(4) 施設設備の状況

① 現有施設設備の所在地の説明（土地）

部 門	所 在 地	施設等	面積等 (㎡)	摘 要
短期大学	仙台市泉区南中山 5 丁目 5 番 2 号	学校用地	33,057	昭和 16 年 2 月取得
高等学校 (薬師堂キャンパス)	仙台市若林区木ノ下 3 丁目 4 番 1 号	学校用地	78,512	平成 15 年 3 月取得
(三神峯キャンパス)	仙台市太白区土手内 2 丁目 1 番 1 号		(27,969) (50,543)	平成 19 年 2 月一部除却 平成 20 年 3 月一部除却
幼稚園	仙台市若林区木ノ下 4 丁目 3 番 14 号	学校用地	2,289	昭和 30 年 7 月取得 平成 19 年 3 月一部除却

② 主な施設設備の取得または処分計画およびその進捗状況

部 門	内 容	取得価格 (円)	摘 要
短期大学	図書館空調設備更新	2,042,460	
	電話交換設備交換及び工事	2,677,500	
高等学校 (薬師堂キャンパス)	情報機器入替	9,446,220	
高等学校 (三神峯キャンパス)	防砂ネット工事	3,795,750	
幼稚園	放送設備更新	3,780,000	

3.財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表の状況

(資産の部)

(単位:円)

科目		本年度末	前年度末	増 減
資産	固定資産	10,955,124,257	11,063,208,738	△ 108,084,481
	有形固定資産	10,143,293,218	10,319,382,618	△ 176,089,400
	土地	4,109,173,404	4,109,173,404	0
	建物	5,233,489,535	5,384,332,294	△ 150,842,759
	その他の有形固定資産	800,630,279	825,876,920	△ 25,246,641
	その他の固定資産	811,831,039	743,826,120	68,004,919
	流動資産	2,088,520,403	1,988,130,504	100,389,899
	現金預金	1,958,181,531	1,874,684,538	83,496,993
	その他の流動資産	130,338,872	113,445,966	16,892,906
合計		13,043,644,660	13,051,339,242	△ 7,694,582

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

(単位:円)

科目		本年度末	前年度末	増 減
負債	固定負債	1,711,660,093	1,848,037,571	△ 136,377,478
	長期借入金	1,540,730,000	1,685,170,000	△ 144,440,000
	退職給与引当金	153,512,231	156,415,111	△ 2,902,880
	その他の固定負債	17,417,862	6,452,460	10,965,402
	流動負債	632,514,270	638,262,062	△ 5,747,792
	短期借入金	144,440,000	144,440,000	0
	その他の流動負債	488,074,270	493,822,062	△ 5,747,792
合計		2,344,174,363	2,486,299,633	△ 142,125,270
基本 金	第1号基本金	12,856,858,804	12,687,910,272	168,948,532
	第4号基本金	169,000,000	169,000,000	0
	合計	13,025,858,804	12,856,910,272	168,948,532
消費収 支差額	翌年度繰越消費収支差額	△ 2,326,388,507	△ 2,291,870,663	△ 34,517,844
	合計	△ 2,326,388,507	△ 2,291,870,663	△ 34,517,844
負債の部・基本金の部・消費収支差額の部合計		13,043,644,660	13,051,339,242	△ 7,694,582

貸借対照表の概要

平成22年度末の総資産額は約130億円で、ここ数年大きな変動のない状況である。

「資産の部」からその内容をみると、まず「固定資産」について当期の新規取得は約4300万円であるが、それに係る除却額及び当年度減価償却による減額から帳簿価額は約1億800万円の減少となっている。「流動資産」では、「現金預金」の増加約8300万円を含み、総額で約1億円の増加となった。

「負債の部・基本金の部・消費収支差額の部」では、平成15年よりの高等学校校舎建築に係る借入金返済により「固定負債」の減少、「基本金組入高」の増加となっている。また、平成20年度よりリース契約の会計処理方針の変更により、固定資産取得を割賦契約とすることもあり「長期未払金」を計上(当年度末約1700万円)している。

財務比率をみると「流動比率」、「自己資本構成比率」等、資産保有に関する値は概して改善の方向性を示すが、単年度数値に関する「消費収支比率(消費支出/帰属収入)」や、「人件費比率(人件費/帰属収入)」等では、まだまだ安定性がなく年度間での変動が大きい。

②収支計算書の状況

ア.資金収支計算書

(資金収入の部)

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,590,342,000	1,596,952,795	△ 6,610,795
手数料収入	46,166,000	48,379,100	△ 2,213,100
寄付金収入	10,275,000	11,296,068	△ 1,021,068
補助金収入	634,002,000	661,976,167	△ 27,974,167
国庫補助金収入	80,713,000	105,250,000	△ 24,537,000
地方公共団体補助金収入	553,289,000	556,726,167	△ 3,437,167
資産運用収入	14,290,000	16,300,790	△ 2,010,790
事業収入	47,339,000	37,976,700	9,362,300
雑収入	40,131,000	76,265,379	△ 36,134,379
前受金収入	330,579,000	316,511,548	14,067,452
その他の収入	912,866,000	935,387,449	△ 22,521,449
資金収入調整勘定	△ 400,147,000	△ 444,016,419	43,869,419
前年度繰越支払資金	1,874,684,538	1,874,684,538	0
資金収入の部合計	5,100,527,538	5,131,714,115	△ 31,186,577

(資金支出の部)

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,436,978,000	1,431,821,178	5,156,822
教育研究経費支出	503,758,000	457,762,551	45,995,449
管理経費支出	208,949,000	182,378,913	26,570,087
借入金等利息支出	24,599,000	24,598,510	490
借入金等返済支出	144,440,000	144,440,000	0
施設関係支出	18,630,000	12,780,697	5,849,303
設備関係支出	31,792,000	29,895,312	1,896,688
資産運用支出	100,228,000	98,270,949	1,957,051
その他支出	908,998,000	910,907,398	△ 1,909,398
(予備費)	(8,535,000)		
	41,465,000		41,465,000
資金支出調整勘定	△ 94,893,000	△ 119,322,924	24,429,924
次年度繰越支払資金	1,775,583,538	1,958,181,531	△ 182,597,993
資金支出の部合計	5,100,527,538	5,131,714,115	△ 31,186,577

資金収支計算書の概要

平成22年度の資金収支計算書の特記事項は、「次年度繰越支払資金」が計画の17億8000万円から約1億8000万円増の約19億6000万円となったことである。

この差異の主たる要因は、まず収入において「補助金収入」のうち「国庫補助金」で約2450万円、「地方公共団体補助金」で約350万円の増額となったことである。また、「雑収入」においても約3600万円の増額となったが、その原因は予定外退職者の発生に係る退職金団体からの収入によるものである。なお退職金については、同時に「期末未収入金」として計上済であり、「次年度繰越支払資金」の増減への影響はない。

支出については、教育研究経費「光熱水費」、「報酬・委託手数料」にて各々6～800万円ずつ減少した。また「修繕費」において、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に関連して3月に発注予定の修理が執行不能となり約370万円の減額となったものもある。

管理経費においては、「入学対策費」と「補助活動費」計で予算比約1200万円の減額となった。

イ.消費収支計算書

(消費収入の部)

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,590,342,000	1,596,952,795	△ 6,610,795
手数料	46,166,000	48,379,100	△ 2,213,100
寄付金	10,579,000	12,599,368	△ 2,020,368
補助金	634,002,000	661,976,167	△ 27,974,167
国庫補助金	80,713,000	105,250,000	△ 24,537,000
地方公共団体補助金	553,289,000	556,726,167	△ 3,437,167
資産運用収入	14,290,000	16,300,790	△ 2,010,790
事業収入	47,339,000	37,976,700	9,362,300
雑収入	40,131,000	76,265,379	△ 36,134,379
帰属収入合計	2,382,849,000	2,450,450,299	△ 67,601,299
基本金組入額	△ 172,603,000	△ 169,328,681	△ 3,274,319
消費収入の部合計	2,210,246,000	2,281,121,618	△ 70,875,618

(消費支出の部)

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
人件費	1,436,978,000	1,428,918,298	8,059,702
教育研究経費	710,008,000	665,102,877	44,905,123
管理経費	219,935,000	193,442,066	26,492,934
借入金等利息	24,599,000	24,598,510	490
資産処分差額	2,512,000	1,709,960	802,040
徴収不能額	67,000	0	67,000
徴収不能引当金繰入額	1,915,000	2,247,900	△ 332,900
(予備費)	50,000,000		50,000,000
消費支出の部合計	2,446,014,000	2,316,019,611	129,994,389
当年度消費収入超過額	△ 235,768,000	△ 34,897,993	—
基本金取崩額	0	380,149	—
前年度繰越消費収入超過額	△ 2,389,248,174	△ 2,291,870,663	—
翌年度繰越消費収入超過額	△ 2,695,177,174	△ 2,326,388,507	—

消費収支計算書の概要

平成22年度の「帰属収入」は約24億5000万円となり、予算比約6800万円の増額となった。その要因の多くは「資金収支」と同内容であるが、「基本金組入額」において予算対比約330万円減少した。その内容は当初固定資産科目で計画していたものが、結果的に経費科目に変更となり「基本金組入」に該当しなくなったためである。それらの結果、「消費収入合計額」は、予算額22億1000万円に対して約7000万円増の22億8000万円となった。

また、支出においても予算比約1億3000万円の減少となり、「消費収支差額」は予算額の約2億3600万円の赤字から、その赤字幅を大きく縮小し約3500万円の赤字までの改善となった。

消費収支の3年間の傾向として、平成20年度には、「消費収支差額」において黒字の8000万円を計上したが、21年には約5600万円の赤字、22年は約3500万円の赤字となっている。「帰属収入」、「基本金組入高」とも年々減少傾向を示していることに今後の注意が必要である。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(資産の部)

(単位:円)

科目		20年度	21年度	22年度
資産	固定資産	11,181,541,202	11,063,208,738	10,955,124,257
	有形固定資産	10,490,670,352	10,319,382,618	10,143,293,218
	土地	4,109,173,404	4,109,173,404	4,109,173,404
	建物	5,527,734,279	5,384,332,294	5,233,489,535
	その他の有形固定資産	853,762,669	825,876,920	800,630,279
	その他の固定資産	690,870,850	743,826,120	811,831,039
	流動資産	1,876,127,112	1,988,130,504	2,088,520,403
	現金預金	1,756,723,513	1,874,684,538	1,958,181,531
	その他の流動資産	119,403,599	113,445,966	130,338,872
合計		13,057,668,314	13,051,339,242	13,043,644,660

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

(単位:円)

科目		20年度	21年度	22年度
負債	固定負債	1,998,653,340	1,848,037,571	1,711,660,093
	長期借入金	1,829,610,000	1,685,170,000	1,540,730,000
	退職給与引当金	169,043,340	156,415,111	153,512,231
	その他の固定負債	0	6,452,460	17,417,862
	流動負債	615,777,760	638,262,062	632,514,270
	短期借入金	144,440,000	144,440,000	144,440,000
	その他の流動負債	471,337,760	493,822,062	488,074,270
合計		2,614,431,100	2,486,299,633	2,344,174,363
基本金	第1号基本金	12,509,951,619	12,687,910,272	12,856,858,804
	第4号基本金	169,000,000	169,000,000	169,000,000
	合計	12,678,951,619	12,856,910,272	13,025,858,804
消費収支差額	翌年度繰越消費収支差額	△ 2,235,714,405	△ 2,291,870,663	△ 2,326,388,507
	合計	△ 2,235,714,405	△ 2,291,870,663	△ 2,326,388,507
負債の部・基本金の部・消費収支差額の部合計		13,057,668,314	13,051,339,242	13,043,644,660

②収支計算書

ア.資金収支計算書 三ヵ年比較

(資金収入の部)

(単位:円)

科目	20年度	21年度	22年度
学生生徒等納付金収入	1,642,055,000	1,584,553,234	1,596,952,795
手数料収入	50,756,930	53,894,375	48,379,100
寄付金収入	2,050,000	7,379,000	11,296,068
補助金収入	671,416,658	703,820,819	661,976,167
国庫補助金	77,111,325	100,394,000	105,250,000
地方公共団体補助金	594,305,333	603,426,819	556,726,167
資産運用収入	16,842,302	20,669,274	16,300,790
事業収入	44,597,500	42,392,050	37,976,700
雑収入	244,028,270	65,524,430	76,265,379
前受金収入	330,888,048	360,947,548	316,511,548
その他の収入	959,489,041	709,387,395	935,387,449
資金収入調整勘定	△ 426,224,924	△ 401,149,664	△ 444,016,419
前年度繰越支払資金	1,557,450,059	1,756,723,513	1,874,684,538
資金収入の部合計	5,093,348,884	4,904,141,974	5,131,714,115

(資金支出の部)

(単位:円)

科目	20年度	21年度	22年度
人件費支出	1,395,877,455	1,435,103,573	1,431,821,178
教育研究経費支出	559,054,027	506,364,288	457,762,551
管理経費支出	174,251,626	176,841,278	182,378,913
借入金等利息支出	28,641,950	26,620,230	24,598,510
借入金等返済支出	144,440,000	144,440,000	144,440,000
施設関係支出	72,376,316	24,410,591	12,780,697
設備関係支出	20,050,807	26,846,992	29,895,312
資産運用支出	261,527,671	80,028,337	98,270,949
その他支出	786,097,088	718,460,120	910,907,398
資金支出調整勘定	△ 105,691,569	△ 109,657,973	△ 119,322,924
次年度繰越支払資金	1,756,723,513	1,874,684,538	1,958,181,531
資金支出の部合計	5,093,348,884	4,904,141,974	5,131,714,115

イ.消費収支計算書 三ヵ年比較表

(消費収入の部)

(単位:円)

科目	20年度	21年度	22年度
学生生徒等納付金	1,642,055,000	1,584,553,234	1,596,952,795
手数料	50,756,930	53,894,375	48,379,100
寄付金	11,687,590	8,270,352	12,599,368
補助金	671,416,658	703,820,819	661,976,167
国庫補助金	77,111,325	100,394,000	105,250,000
地方公共団体補助金	594,305,333	603,426,819	556,726,167
資産運用収入	16,842,302	20,669,274	16,300,790
事業収入	44,597,500	42,392,050	37,976,700
雑収入	261,888,672	70,074,259	76,265,379
帰属収入合計	2,699,244,652	2,483,674,363	2,450,450,299
基本金組入額	△ 203,381,179	△ 177,958,653	△ 169,328,681
消費収入の部合計	2,495,863,473	2,305,715,710	2,281,121,618

(消費支出の部)

(単位:円)

科目	20年度	21年度	22年度
人件費	1,389,537,855	1,427,025,173	1,428,918,298
教育研究経費	764,537,724	715,190,708	665,102,877
管理経費	185,052,918	187,600,214	193,442,066
借入金等利息	28,641,950	26,620,230	24,598,510
資産処分差額	46,630,513	3,896,043	1,709,960
徴収不能引当金繰入額	818,200	1,539,600	2,247,900
消費支出の部合計	2,415,219,160	2,361,871,968	2,316,019,611
当年度消費収入超過額	80,644,313	△ 56,156,258	△ 34,897,993
前年度消費収入超過額	△ 2,361,215,248	△ 2,235,714,405	△ 2,291,870,663
基本金取崩額	44,856,530	0	380,149
翌年度繰越消費収入超過額	△ 2,235,714,405	△ 2,291,870,663	△ 2,326,388,507

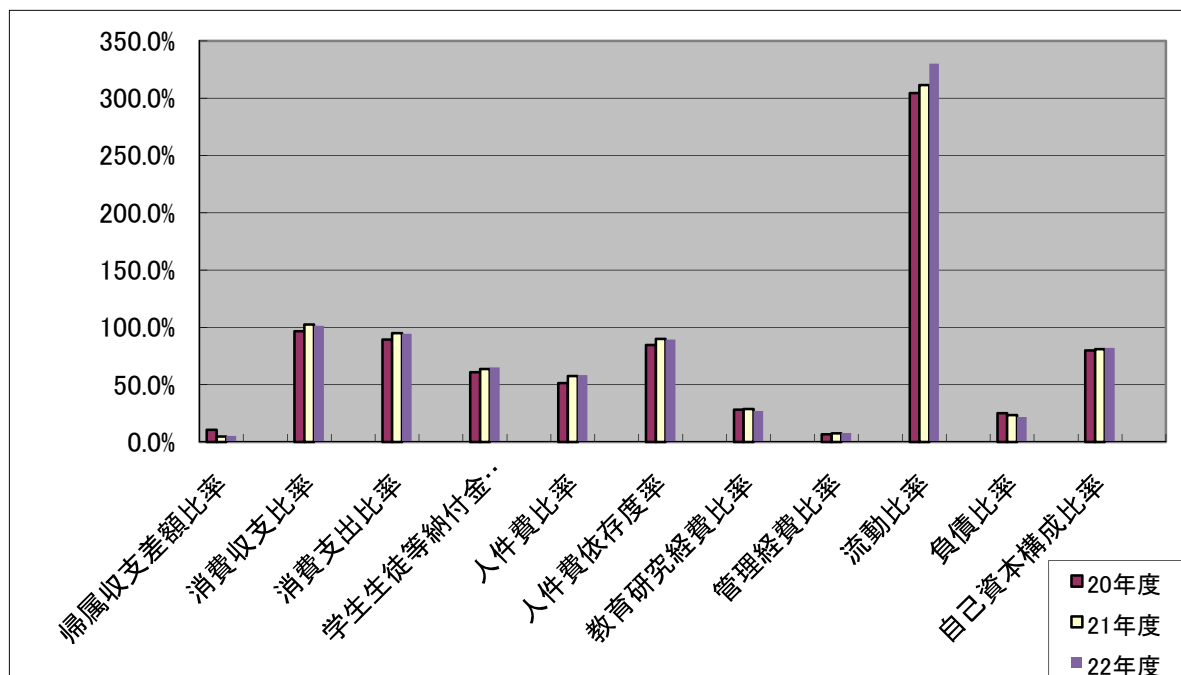
(3) 主な財務比率比較

(単位:%)

比 率	算 式(×100)	20年度	21年度	22年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	10.5%	4.9%	5.5%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	96.8%	102.4%	101.5%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	89.5%	95.1%	94.5%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	60.8%	63.8%	65.2%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	51.5%	57.5%	58.3%
人件費依存度率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	84.6%	90.1%	89.5%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.3%	28.8%	27.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	6.9%	7.6%	7.9%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	304.7%	311.5%	330.2%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	25.0%	23.5%	21.9%
自己資本構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	80.0%	80.9%	82.0%

自己資金=基本金+消費収支差額

総資金=負債+基本金+消費収支差額



(4)借入金の状況

借入金総額: 1,685,170,000 円

借入先: 日本私立学校・振興共済事業団